

道路修繕の必要性把握へ

路面点検にAI活用

19日から実証実験

焼津市

焼津市は、道路の修繕が必要かどうか把握するのに人工知能（AI）を活用する実証実験を行う。対象は市内の生活道路約1000。舗装路面と外側線の状態を一体的に調査する内容を、県内で初めての試みという。



2019年
7月2日朝刊

①AIを日本語で表すとどうなるか。漢字4字で書きなさい。

--	--	--	--

車で走行しながら搭載カメラで道路を撮影する。AIが撮影画像を分析し、外側線のかすれや舗装路面のひび割れ、ポットホール（穴、へこみ）の状況を9段階で評価する。段階別に色分けしたデータを地図上に示し、修繕計画を立てやすくする。

市は道路の維持管理方法について、舗装が著しく損傷した段階で全面的に打ち換え「事後保全管理」から「事前保全管理」に転換する。NTT西日本静岡支店と昨年3月に締結した連携協定に基づき、同社とともに実施する。期間は19日から9月24日までの約2カ月間。実用性を検証

②焼津市では、AIを使って何を把握（はあく）しようとしているのか。また、AIを使うことによってどのような効果を期待しているのか。次の文の（ ）に当てはまる言葉を記事中から探して書きなさい。

AIを活用することで（ ）の把握を（ ）し、道路の損傷（そんしょう）が軽微（けいび）なうちに（ ）な修繕を行い、舗装（ほそう）の延命化（えんめいか）を図ろうとしている。

③記事を参考に、「人の安全を守る」という視点で、今後、AIにはどのような活用が考えられるか。あなたのアイデアを1つ、15字以上30字以内で書きなさい（句読点を含む）。

した上で、来年度以降導入するか検討す（焼津支局・尾原素也）

15字

30字

年 組 名前